

何を残すか

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 田中 宏



診療放射線技師として、医療職種として、または人生として何のために仕事をし、生きるのかを考えたことがあるでしょうか。学生の頃、進

路を選んだ時のことを振り返ってください。食いはぐれない仕事、専門職、医療で感謝される仕事、ドラマを見てなど、さまざまな理由があると思います。私が診療放射線技師を選んだ理由は「画像診断分野で病気を早期に発見したい」と思ったからです。正解はありませんが、せっかくの人生、何かを残してほしいと思います。

残すとは偉業を成し遂げるというのではなく「この人と関わってよかった」と思ってくれることだと思います。例えば「この人が家族で良かった」「一緒に仕事をして楽しかった」「あの人がいてくれたおかげで…」と記憶に残ってくれたら最高の人生です。

開業医、個人事業主や中小零細の社長さんに代わりはいない場合は多いですが、組織が大きくなればなるほど、その人がいなくても仕事は回ります。私がいなくても埼玉県診療放射線技師会は動きますし、病院も稼働します。しかし、その人しか持ちえない雰囲気や活気があります。今、私は何のために生きるか？と問われたら、**自分と関わりを持った人たちが一人でも多くの人に影響を与えることができるため**にと答えるでしょう。仕事は「何をやるか」よりも「誰とやるか」は重要なファクターです。地味な仕事も誰とやるかで

結論は大きく変わり、周囲に大きな影響を及ぼすことがあります。

自分の仕事にある程度余裕ができれば、目の前の検査や撮影などの作業だけでなく、診療全体を見るようにしてください。患者の主訴から検査、治療、その後の経過や予後について知ることによって診療全体が見えてきます。オーダーを出す医師の考えを知ることも大切です。医学的な所見だけでなく、過去の裁判の判例や患者本人・家族の希望を判断材料としている場合もあるからです。また経営に関することにも興味を持ってください。大きな組織では多職種との関わりが少なく、全体像が見えない場合が多いようですが比較的小規模の施設では、職種間の距離が近いため、お金の流れを知ることができるのが大きなメリットです。そして、医療全体を見るためには診療放射線技師だけでなく、医療職では医師をはじめとする多職種とのコミュニケーション、さらには医療職ではない会社経営者や保険業・不動産屋・政治家など、多職種と情報交換をすることで病院組織の仕組みや社会の仕組みを知ることができます。

これらの人脈を得るためには、積極的に先輩のお供や外部の組織に飛び込んでください。きっかけは与えられるものではなく、自分で作るものです。ミクロでなくマクロの視点で見る習慣が身に付きます。

一緒にいると面白い、ワクワクする大人になってください。

人生は「何を持っているか」ではなく、「何を残すか」です。